

UIFA JAP●N

NEWSLETTER

■主な内容

「UIFA 第13回大会の記録ノート私家版から」
21世紀初のUIFA世界大会
発表概要—「Before and After the Active Life」への多彩な視線
ポストコングレスツアー報告記
海外コラム「マニラを訪ねて」
この指とまれ報告「新しい福祉のモデル—鷹巣訪問」
会員報告「水彩フェスティバルを実施」
ユニバーサルデザインを考える「ユニバーサルデザイン考」
UIFA会員の本
役員会報告



白熱する事務局会議

「UIFA 第13回大会の記録ノート私家版から」

松川淳子

前号のニューズレターで、すでにたくさんの方が大会の報告を書かれている。この稿では、重複を避けながら、旅のメモ帖に記録されていることを紹介したい。

開会式では女性への期待が語られた

開会式の来賓、オーストリア厚生労働省のハウプト大臣は、「ふだん男性としてマジョリティの中で生活していると気づかないことをこの会にはたくさん教えてくれる、例えば朝食のテーブルで長々とスピーチをぶつような人は誰もいない…」、「女性はチームスピリットがあり、協力し合って仕事をするのがうまいのでこれを生かしてほしい。20世紀におけるいくつもの問題点—景観、開発、道路、醜い建築などを克服する21世紀でなければならぬ…」などと述べられた。ド・ラ・トゥール会長は、「男女協力する時代だが、女性のセンスを大切にほしい、女性の下積みの上にさまざまな成果があったことを忘れてはいけない…」と話され、UIA副会長ヘンベル氏は、2002年7月にベルリンで行われるUIAについて詳しいプレゼンテーションを行い、「ぜひたくさん女性の参加してほしい」とよびかけられた。女性への期待が語られた開会式であった。

女性、子ども、高齢者…

把握できた範囲で数えると29タイトルの発表があった。テーマの内訳は、子ども9、高齢者又は少子・高齢社会9、女性の建築家またはその作品2、各国の女性建築家の状況3、その他6ということになるだろう。

日本、韓国、中国などアジアの国々、USA、地元オーストリアの参加はもちろん、南から北までのヨーロッパ諸国、イスラエル、カザフスタンなど多彩な国々の参加の中で、多摩ニュータウンのリニューアルについての調査を発表した私にとっては、ニュータウンのご本家イギリスとスウェーデンからの参加が無かったのは少しさびしかったが、ヴォルフコフさんによるイスラエルの高齢化の現況やオーストリアのブランデルさんによるコレクティブハウジングに対する考え方など、UIFAならではの貴重な国際

的専門情報の交流が出来たと思う。

体力の必要な事務局会議…

事務局会議（写真右）は最終日の前夜、18時から4時間近くをわたって食事も抜きに(!)行われた。主に1. この分野の女性たちの各国における組織化状況、2. 会の財政問題、3. 次回の大会の開催地とテーマについてが議題となった。組織化について、日本はUIFAの優等生であるが、なかなか他の国のモデルとはならないという意見が多く、「民族性の違い」ということに片付けられている。そうともいいきれない問題があると思うのだが、うまく伝わらない。

次の開催地については「UIFAの40周年だから、パリで！」をはじめ、香港、アデレード、「イタリアは2006年に」、私の提案「『防災』のテーマでトルコのイスタンブールで」など。テーマについても、「男性主導で作られた既存環境への女性の貢献」、「保存と再利用」などなどたくさんの意見が出て、会長がアンケートを各国に回すことで、尽きない議論を終わらせた。Eメールを使った情報の交流をもっと真剣に考えるべきではないか、という意見も出た。普及のしかたに国による差がありすぎて、成果が望めないということや利用者層がかなり若い世代に多いことなどから、結局そのままになってしまった。日本の現況からは、積極的に利用していく方向もあり得ると思う。

楽しさや意義を広く分かち合いたい！

UIFAは、会員個人個人の強い意志と努力に支えられて40年近くも続いてきた、建築や都市、環境の創造・研究に携わる女性の国際組織である。世界中に友人を持ち、仕事の成果を議論したり、確かめ合ったりすることの出来る楽しさは、何物にも代え難いものであり、地球や宇宙の広がりを実感するまたとない機会でもある。この楽しさや意義を広く分かち合い、息の長い活動を志したい。「日本大会はすばらしかった！また、いつか訪ねたい」、「あの楽しさが忘れられずに今度も参加した」という人たちにたくさん出会ったことも付け加えておきたい。



■ 21世紀初のUIFA世界大会

発表概要—“Before and After the Active Life”への視線

田中厚子

UIFA ウィーン大会の論文発表は、3日間にわたって行われました。大会のテーマは“Before and After the Active Life”。概要は以下のとおりです。



- 7月3日(午前) 9名 **デンマークのアリスさんの発表**
- ・ Evelyn Lang Jacob (スイス) スイスの建設業に携わる女性の平等と連帯のための組織づくり
 - ・ 徐華 (日本) シミュレーション空間での空間認識の特徴
 - ・ 田中厚子 日本とカナダの子供部屋の比較
 - ・ 東由美子 二世帯住宅の例として自作を紹介
 - ・ 松川淳子 高齢化するニュータウンのリニューアル
 - ・ Choi Kyung-Sook (韓国) 韓国のチャイルドケアセンターの文化的特質
 - ・ 中野晶子 高齢者へのソーラーシステム
 - ・ 吉田あこ 聴力に障害のある高齢者を考慮したコンサートホール
 - ・ 三上紀子 人間と空間の関係について

- 7月3日(午後) 6名
- ・ Milka Bliznakov (アメリカ) IAWA(国際女性建築家アーカイブ)にみる子供のためのデザイン
 - ・ Maria Giovanna Reni (イタリア) 伊の女性建築家の組織
 - ・ Dianna Volcoff (イスラエル) イスラエルの高齢者と住まい
 - ・ Yifang Xu (中国) 広東省Guangxiaosi Templeの改修工事
 - ・ Sonya Mikulinic (スロベニア) 室内空間の研究
 - ・ Sonya Baldessarini-Ricon (ドイツ) Lina BALDIの建築

- 7月5日 9名
- ・ Sonia Gasparin (オーストリア) 第2、第3の兆候の建築
 - ・ Sijja Tillner (オーストリア) 老朽化したウィーン Gurtel 通りの都市再生
 - ・ Feya Brandl (オーストリア) 50才以上の人のためのハウジング
 - ・ Doina Ciocanea (ルーマニア) 幼年期におけるヒューマン・コミュニケーション
 - ・ Alice Finnerup Moller (デンマーク) デンマークの幼稚園の例として自作の設計プロセスを解説
 - ・ Marchella Grigorescu (ルーマニア) ルーマニアの児童福祉施設での孤児たちのリハビリテーション
 - ・ Jasna Strzalkowska-Ryska (ポーランド) ワルシャワ中央駅など過去20年間の地下鉄駅の自作を紹介
 - ・ Fatima Silva (ポルトガル) ポルトガルの女性建築家の活動をして
 - ・ Eunjin Oh-Chang (韓国) 長期介護施設の痴呆老人の行動と建築環境の治療的質の関係

- 7月6日 3名
- ・ Anna Kwong (香港) 香港最古の教会改修報告と香港のパブリックハウジング
 - ・ Michaela Veronica Maxim (ルーマニア) 高齢者と子どもの健康のためのリゾート地と施設
 - ・ Maylan (カザフスタン) カザフスタンの建築と建築家について

ポストコングレスツアー報告記

正宗量子

「ウィーンに咲いた花」に出会う

7月7日(土)から9日(月)迄の3日間、ポストコングレスツアーで SALZBURG (塩の城の意)へ旅した。会議のあった Schloss Wilhelminenberg から約3時間の道のりだ。途中、ドルシュタインの船着場から遊覧船に乗り込みドナウ河を上り船内で食事をとった。初夏の河香が新鮮で緑の中に点在する古城や家並みがとても美しい。古城は、現在ワイン醸造所になっていて、前夜フェアウエルパーティで飲んだワインは皆この辺りで造られたものだという。バイセンキルヘン、シュビッツ地域のワイン産地を後にメルクで下船。バロック建築で名高いベネディクト派のメルク修道院を見学した。8C頃から文化や宗教の中心地で、12Cから修道院と学校がある。1998年現在、公立のギムナジウムが運営されていて、約780名の男女生徒が学び、寮制神学校では、未来の大司教が20名在籍しているという。中庭や、大理石の間、古文書が薈く図書館はさながら宮殿のようだ(写真右)。



8日(日)8時30分迎いのバスに乗り市内見学。旧市街にある1756年に誕生したモーツアルトの生家が記念館になっていて愛用したヴァイオリン、直筆原稿、髪の毛など数々の遺品とともに建築内部の暮らし振りを想像できた。荘厳な Dom 大聖堂内部、他の教会を見学しビール工場跡地を改造したレストランで昼食。午後、ザルツブルグの東方、ザルツカンマーグートの温泉保養地Bad Ischlに向かった。去る5月26日(土)、第13回ウィーン大会に向け「ウィーンに咲いた花」—ハプスブルグ家最後の皇妃エリザベットの美の世界—という題で講演会が開かれたことを思い出した。第25回海外交流の会でお招きした旅行作家谷澤由起子さんのジョークを交えたお話は、正にこの日の見学会のためにあったのではなかったか。そう思うほど彼女のアクティブライフの建築内部で演じられたドラマや生き様の現実を垣間見たような気がしたのだった。1000年間ヨーロッパに君臨したハプスブルグ家最後の皇妃エリザベット(シシイ)に、フランツ・ヨーゼフの両親が贈った楚々と緑に映える館にしばし疲れた体を癒した。ここは彼らの夏の離宮だったそうで、狩猟を中心とした生活が、残る写真や肖像画、家具調度の数々から伺え、当時のシシイの面影が重なっていく。その後、湖水地方を観光。再度訪れたいと思うほど美しい自然に抱かれたサント・ヴォルフガング湖の町から乗船、St.Gilmanで下船し夕刻ホテル着。

9日(月)ツアー最終日は、ミラヴェル宮殿内に機能しているザルツブルグ市庁舎で建築家や都市計画家のレクチャーが2時間半に渡り開かれた。宮殿内には図書室や結婚式場、音楽会も開催され市民に開かれていた。その後、ザルツブルグ市長主催のレセプションが昼食時にあり、遠来の客への感謝とともに、市長の古い建築の大切さと、更に新しい建築の大切さを強調されたのが印象に残った。ドラトゥール UIFA 会長の返礼挨拶で会は終了、Schonbrunn 宮殿見学希望者はバスを降りウィーンのホテルに戻り散々暮々帰路についた。

■海外コラム

マニラを訪ねて

東京都駐車場公社前理事長 石川金治

9月11日に発生したアメリカの同時多発テロ、その後の炭疽菌事件など人命に係わる卑劣な事件が続いて起きている。その背景は難しいことがいろいろあると思うけれども、憎しみ合いの中からは、よい結果が生まれないことはロミオとジュリエットの結末をみれば分かるとおりでである。

自分の信ずる宗教や自分が抱えてたつ理念とか信念は、他人と異なるのは当然である。日常生活では、それを前提にして共存する知恵を身につけている。今回の事件で、国際社会ではそれが通用しない場合があることが明らかになった。この問題を解決するためのキーワードの一つが経済的格差の解消である。その手段として、資金援助、技術援助、教育や日常生活の支援などをするためのODA予算がある。このODA予算が最近、減らされている。

その原因は不景気による財源不足が大きなウエートを占めているが、それだけではなく、「ODA予算の使い方にも反省の余地がある」という意見に対して、的確な説明がなされていないからではないだろうか。

その一例としてフィリピンを訪ねたときの感想を記す。首都マニラには、最近ゴミを焼却する清掃工場が完成した。しかし焼却時にダイオキシンが発生するため、焼却開始に関する住民の了解が得られず、停止状態である。集積したゴミが崩れ、多くの人が生き埋めになる事件が発生したにもかかわらず、相変わらず生ゴミを集積している。

また、ゴミの集積は環境を害するため、新規の捨て場が開発できず、街角にゴミがあふれている。焼却施



資源回収をする人たち
この少女の見つめる先には
何が見えるのだろうか



高架鉄道よりの左車線は横断する車のために設けられたもの

設が稼働すれば解決するのに、宝の持ち腐れである。なぜ清掃工場の着工前にダイオキシン問題の解決をはからなかったのか？ 同じような事例に、広い街路の中央分離帯部分に、LRT高架鉄道を最近導入したが、あまりに低いので横断道路が全て遮断され、立体交差部分まで横断する車で渋滞を起こしている。

河川の例としては、湖に海水が逆流しないようにバサイ川との合流点に水門を作り、湖の淡水化を図り、用水を確保する計画がある。水門や閘門はかなり前に完成して、維持管理要員も配置されているが、湖の淡水化に関する漁業補償が解決していないので、閉鎖業務ができない状態である。

地元説明をするべきだとか、高架の高さを上げるべきだという憎まれ口をたたくのも技術援助の一環ではないだろうか？ ODA予算を使わない、UIFAのような技術交流がますます必要な時代になってきていることを痛感している。

■この指とまれ報告

新しい福祉のモデル—鷹巣訪問

稲垣道子

8月の金曜～日曜の54時間の訪問。天気は快晴。あらゆる色の真夏の緑、土曜日夜の大響祭(全国から集まった太鼓共演の大イベント)、会場の野原からの広大な夕焼け…。

鷹巣といえば福祉のまち。年間3,000人の視察者があるという。休日なのに、女性職員やボランティアの方の心のもった手厚いご案内を受けた。

さて、施設を見るとすれば、まずは個室型施設として有名なケアタウン鷹巣だが、特に付属の補助器具センターがおすすめだ。介護器具のリユースセンター機能とともに、手すりの高さや位置をきめ細かく確認するための手作り装置(写真A)や素材のサンプル棚を設けたコーナーがある。住宅改造というハード面とサテライトステーションを拠点とし



ケアタウンでは犬も一緒



写真A

た在宅介護支援のソフト面が一体となって、自宅での暮らしが支えられている。

私の関心は、この町の地理的な広がり、歴史的な形成を含めた全体像だった。地方財政の今後も含めて人口22,000人、326km²の町がどんな未来を切り拓いていくのか、福祉がどのように産業になっていくのか見続けたい。

空港ができて、福祉が充実しても、平成12年の国勢調査結果ではさらに人口は減っているのだ。

そして… たんぼの中の一軒家のコミュニティセンターで笑いあう高齢の方たち、その方たちの帰る家での孤独、それを理解しつつ接する職員の方のやさしさ…。過疎地で年齢を重ねていくことに思いを馳せないわけにいかなかった。



補助器具センターで

■会員報告

水彩フェスティバルを実施

須永倭子

UIFA 日本大会で「街づくりにおける歴史遺産の活用ー深川・人と時間との共生」を発表した後も、深川のまちづくり運動を続けている。深川地域には歴史を物語る貴重な建築物や掘割が残されている。こうしたことへの地域の理解が必要と、水上バスを走らせている企業、地元キャンパスを持つ東京商船大学、国土交通省や都の河川管理担当セクション、地域の町会などに呼びかけ、江東区の後援のもとに9月8日、水彩都市アピール実行委員会主催で「第2回水彩フェスティバル」を開催。水上バスや和船、カヌー、カッターなどの乗船体験、投網などを実施した。参加者のアンケートには船から見た街の印象などが綴られ、一応の成果を上げることができたと思う。

11月29日には日本大会で発表したときのメンバー（「江東区のまちづくりを考える会」）で主催するシンポジウムを行う。タイトルは「<フィールドミュージアム・深川>の実現に向けて」。地域に残された風景や建築などをどう次世代に引き継いでゆけばいいのか、考えるきっかけづくりをしたいと考えている。UIFAを含め多くの方の参加を得て広がりを持てればと思う。

ユニバーサルデザインを考える

「ユニバーサルデザイン」考

小池(米田)和子

「まち」を住みやすくするため、「ユニバーサルデザイン」にする必要があると言われている。それも「すべての人」が使えるように。 「まち」は不特定多数の様々な人が住まうところ、その一人ひとりがひとつのデザインで快適に使えることはありえるのか疑問である。

「バリアフリーデザイン」とは、「バリアを解消し、移動できることを可能にする工夫」であるからこれは納得できる。「ユニバーサルデザイン」は「すべての人に利用しやすいように」と意識されているが、「より多くの人に利用しやすいように」と、少し控え目な表現が望ましいように思うのは、私だけではないかもしれない。

また、「ユニバーサルデザインの7つの原則」が日本語訳で紹介されているが、日本語の表現が統一されていないように思える。外国語を日本語に的確に訳することは難しい。考え方を輸入ばかりしないで、いっそのこと、日本語で表現した私達の考えを、輸出して欲しいものだ。

それとも、日本語に訳したものを外国語に訳し直し、取り入れ先に戻すことにより、取り入れた外国語が、的確に汲み取られていることが検証されるかもしれない。そういった立場のある人には、是非、そうしていただきたい。

■UIFA 会員の本

●企画・編集：フェリックス 稲垣道子
まちづくりQ&A no.4「街と建物」

この冊子のQ&Aは全部で18。街づくりへの疑問から始まって、街と生活、街と建物、街と建築、街と制度、話し合いや街との関わりまで、街について考え、関心をもって意見を交わせることを願ってつくられた小冊子ながら実に内容の濃い本。定価1,000円。

発行：世田谷区都市整備公社まちづくりセンター 電話3411-6634

URL <http://www.setagaya-udc.or.jp/machisen/>



■役員会報告

2001年度第5回役員会

日時：8月20日

出席者：小川、松川、山田、峯、草野、渡辺、栗山、田中、正宗、東

議事：1. 「ニューズレター参加協力のお願」、 「広告掲載のお願」

を会員送付。 広告料：1/4 コマ10000円 1/2 コマ20000円

2. UIFA JAPON 案内パンフレット作成費用の検討

3. ウィーン大会報告会の企画案を事業が作成、次回に検討

2001年度第6回役員会

日時：9月20日

出席者：小川、松川、山田、飯島、草野、柳澤、田中、正宗、吉田(あ)

議事：1. 「第13回UIFA ウィーン大会・シュロスからの報告」

11月24日オリンピック記念青少年センターにて開催

参加者へのアンケート実施

2. ウィーン大会報告書作成の提案 企画案の作成

3. UIFA JAPON 交流サロンの開設、年三回程度

第1回交流サロン 11月24日開催の報告会とする。

4. 来年2月発行のNewsletterは名古屋会員との共同編集

2001年度第7回役員会

日時：10月22日

出席者：小川、松川、山田、飯島、草野、柳澤、北本、峯、正宗、吉田(あ)

吉田(洋)

議事：1. 会費未納状況報告、督促状送付

2. ウィーン大会報告会の内容検討、案内状・参加者への呼びかけ文の送付

3. 「会員交流サロン」2002年度開催内容について

4. 2001年度第3回海外交流の会「モンゴルの福祉計画」にて企画

5. 50号Newsletter企画案について名古屋会員と共同検討

6. 女性仕事場の未来館の来年3月からの展示にUIFA JAPONとして協力

7. UIFA JAPON ホームページ開設の提案

■広報だより

「ビッグ・リトル・ノブ」会員の本、今は亡き友の若き母堂発見(飯島)、11月9日東京女性担担研究報告会で「ビッグ・リトル・ノブ」の報告をしました(田中)、この寒さに、9月11日以降季節の移ろい を忘れていたことに気づきました(井田)、戦争のない地球の平和を願う(渡辺)、初めて編集長役で原稿集めの苦勞を知りましたが、無事発行にこぎつけ感謝多々です(編集長：北本)

小川信子・田中厚子 著 2200円(税別)

ビッグ・リトル・ノブ

ライトの弟子・女性建築家 土浦信子

昭和初期に活躍しながら表舞台から去った日本初の女性建築家。知られざる信子像を描く意欲作。

ドメス出版

東京都豊島区駒込1-3-15
TEL 03-3944-5651
FAX 03-3944-3559



高気密高断熱木製サッシ・乙種防火戸認定品



株式会社

富山県富山市上赤江町1-1 〒930-0816
TEL (076) 441-1423 FAX (076) 443-3664
キマド ホームページ <http://www.kimado.co.jp/>